

運転代行2団体で総会

健全化対策で指針作成

全運協 丹澤会長再選

公益社団法人・全国運転代行協会(丹澤忠義会長)は16日、東京・日本橋の鉄鋼会館で第19回通常総会を開いた。写真。役員改選で理事を決め、理事の互選で丹澤氏を会長に再選した。栗原和夫専務理事が顧問となり、安藤宗行氏が新専務理事に。埜尚志顧問が退任した。来賓では、警察庁交通局交通企画課の高島史典係長、国土交通省自動車局旅客課旅客運送適正化推進室の清水嘉一室長、東京交通新聞の二村博三社長が来賓あいさつした。



丹澤会長はあいさつで「会員数はまだ少ないが、会員事業者こそ業界の将来を真剣に考える人たちだ」と称賛。来年4月の都道府

県への事務・権限の移譲に触れ、各地でさらに模範となる行動を呼び掛けた。事業計画では、権限移譲をチャンスと捉え、県や公安委員会との連携を強化し、地域に根差した活動で健全化や事故防止に取り組むことを確認した。

健全化対策では、利用者や飲食店向けに、運転代行のルールなどを紹介し、業者選択の助けとなるようなガイドラインを作成する。優良運転代行業者の評価制度にも引き続き取り組む。利用者への広報や認定基準なども議論した。事故防止や飲酒運転の根絶に向け、講習会やキャンペーンなど広報活動も行う。